

宇管工

宇工高に配管材料寄贈

高校生の技能向上を支援

宇都宮市管工事業協同組合（和田均理事長）は10日、県立宇都宮工業高校（菅野光広校長）に教材用の配管材料（50万円相当）を寄贈した。同校への寄贈は今回が9回目。贈られた材料は、環境設備科の生徒が受験する「配管技能検定」の実技課題の練習や、技能五輪全国大会出場を目指した訓練等に使用される。

寄贈したのは、学校側から要望のあった銅管や銅管、塩ビ管、継手などの材料。当日は和田理事長、川中子武保専務理事らが同校を訪れ、菅野校長と環境設備科の福田和寛教諭が出迎えた。

和田理事長は、11月13日～16日に愛知県で開催された「第58回技能五輪全

国大会」の配管職種部門で、同校3年の石井悠貴さんが銅賞を受賞したことに、「高校生としては素晴らしい快挙」と賛辞。業界における人材の確保・育成については「最近の若者は、給与より休日重視する傾向にある。週休2日制での工事発注による労働環境の

改善に期待したい」と現状の課題を挙げ、外国人材の受け入れ拡大に向けた環境整備の必要性にも言及した。

また、菅野校長は「毎年のご寄贈に感謝申し上げます。今年は新型コロナウイルスの影響により、インターンシップが実施できない状況。い

ち早く収束し、地元企業に一人でも多くの生徒を送り出せるよう願っている」と語り、将来の業界を支える担い手確保への支援を約束した。

資材の受け渡しには、

配管技能検定2級を受験

する3年生3人も同席。

石井さんは「大会本番で

実力が発揮できたのは、

繰り返し練習するための

材料を寄贈していただいた

おかげ。もっといい賞

を取れるよう、これから

も技能を磨いていきたい」と決意を新たにしてい

た。



配管材料を寄贈する和田理事長（前列右）

R2.12.12日刊建設新聞